

心理学部 父母会会報

No.13 Dec. 2015



DOSHISHA UNIVERSITY
Faculty of Psychology

Contents

● ご挨拶	3
● 父母会ニュース 父母会イベント	
地区懇談会	4
東京地区懇談会	
名古屋地区懇談会	
福岡地区懇談会	
京都地区懇談会	
2015年父母会臨時総会報告	7
秋のアクティビティ	8
● わたしの学生生活〈1〉	9
● ゼミ探訪	10
● わたしの学生生活〈2〉	12
● 心理学部ニュース	14
● 学部インフォメーション	15



表紙の写真：京田辺キャンパス 香柏館 低層棟



❁ ご挨拶 ❁

父母会発足7年目を迎えて

心理学部父母会副会長 橋本 千賀子



日一日と寒さが増し、冬を迎えます。

吐く息は冷たいですが、そっと手をあてると暖かさがじんわりと伝わってきます。もう大人されどまだ子供？そんな我が子をそのように見守れたらと思います。

2年間でしたが、父母会役員として様々な行事に参加させていただきました。

教授による講演会や模擬授業、施設の見学などを通じ、自分の学生時代に比べ恵まれた環境と設備、そして先生方に暖かく見守られて幸せな学生生活を送らせていただいているのだと実感しました。

2009年に心理学部が発足してから早7年目となり、父母会としても節目の年であると思います。

入学式・新入生父母交流会からはじまり、5月総会・就職講演会・交流会、9月には全国3か所で行われました地方父母会、父母会会報の発行をしました。総会や地区懇談会時には、先生方にも出席をお願いし、子どもの学業や就職に関する気楽に相談できる個別の面談会を設けています。また、本年はじめての取組みとして、10月30日に心理臨床センターでの佐藤豪教授の講演会・寒梅館でのフレンチ・御所散策・新島旧邸のガイド付きツアーを企画いたしました。初めてお会いするとは思えない程会話も弾み、とても楽しいひと時を共有させていただきました。

1学年150名前後の同志社大学心理学部ならではのアットホームな雰囲気であればこそ実現出来たのだと思います。

1月30日には4年生の学生生活の集大成である、卒業論文をまとめたポスター発表会を予定しております。

どなたでも参加できるようになっていますので、是非この機会に大学を訪れていただき、子供たちの学校環境や学業の様子をご覧いただけたらと思います。

大学や学生をどのように支援出来るかを、今後もご父母の皆様と検討して参りたいと存じます。

ラグビー・ワールドカップ

心理学部長 中谷内 一也



今年、ラグビー日本代表は南アフリカを破るという大番狂わせを演じました。私は自分が生きているうちに南アに勝つ日が来るとは思ってもいませんでした。試合が進むにつれ目頭が熱くなり、試合終了後には声を上げて泣きました。長年のラグビーファンは皆そうだったと思います。

あまりの大金星に、報道の見出しには「奇跡の勝利」とか、ネット上では「女優の桐谷美玲が吉田沙保里にレスリングで勝つようなもの」とか、無茶苦茶な表現がなされています。しかし、ラグビーには番狂わせはあり得ても、奇跡は起こりません。いまでも実力は圧倒的に南アが上ですが、南アの実力の幅の下の部分と、ジャパンの実力の幅の上の部分とがわずかに重なるくらいにまでジャパンは力をつけていました。その重なりの中で非常に低い確率ですが、ジャパンが上に位置する事態が実現したのがあのゲームといえます。簡単にいうと、そこまで能力を高めたからこそ勝利できたのです。では、なぜ、そこまで能力を高められたのか。それは選手達が口を揃えていう世界一厳しい練習に耐えてきたからで、それを支える高い動機づけがあったからこそです。では、なぜ、そのような高い動機づけを維持できたのか。それはヘッドコーチ、スタッフ、そして何より選手達が本気でワールドカップでベスト8実現に高い価値を置き、それを共有したからだだと思います。4年前の力で本気でそう考えたこと自体がそれだけで偉業（あるいは甚だしい勘違い）、というくらい日本ラグビーと世界のトップレベルとの差は絶望的だったのです。

同志社心理の学生たちも、グローバル化の波の中で、いずれ世界を舞台にした厳しい競争にさらされることでしょう。そこで結果を出すためには、高い能力を身につけなければなりませんし、そのためには持続的な努力とそれを支える高い動機づけが必要です。でも、根本的に必要なのは野心的な価値を抱けるかどうかにある。南ア戦勝利はそれを教えてくれました。

父母会ニュース

■東京地区懇談会 (9/20)

役員レポート

長谷部 巳起子 (2年次役員)

本年度の東京地区懇談会は、シルバーウィークの影響もあり、少人数での開催となりました。

第一部は「こころー脳の生み出す幻像ー」という演題で、心理学部余語教授による講演を拝聴致しました。

「人の心は脳が生み出す幻なり」…冒頭から投げかけられた興味深い命題に、自らの好奇心は掻き立てられました。「人が見ているものが全てではない」「自然界では謙虚であるべきである」ということや、「人は元来歪みのなかで生きている」という前提に立つことの必然性」等、日頃の「あたりまえ」を再考する契機を得ることになり、目から鱗が落ちる思いが致しました。同時に、息子が踏み入れた心理学の世界は実に面白い…と改めて実感することができました。保護者として参加した場におきまして、自らが学ぶ機会に恵まれましたことに二重の喜びを感じております。

第二部の懇談会では、「キャンパスの学生の様子」「大学での学びの内容や資格について」「就職及び大学院への進学状況」等、日頃父母として気になる話題について教授を交えて質疑応答、各々の体験談をもとに情報交換がなされました。短い時間ではありましたが、大変実りある懇談となりました。

親元を離れ同志と学ぶ我が子の、無事と成長を祈るばかりの身、大学が遠路遙々ホームに出向いてくださることが何より有り難いと実感し、心から敬意を表します。幾つになっても親心、自らもまた学びながら情報を共有し、多くの保護者の方々と繋がりを持つことができたら幸いです。

父母感想

吉村 昭彦さん (1年次生・吉村未来)

9月20日、東京での父母会に参加させていただきました。余語先生の講演会と先生を囲んでの懇親会でした。少人数だったおかげで、まさに膝をつきあわせてお話しを伺うことができ、日頃抱いていた質問を思いきりぶつけることができました。子供は新入生です。全く情けない話ではありますが、心理学でどのようなことを学び、将来どのような進路があるのか、私はもとより本人も十分わかっておりません。余語先生の講演では心理学研究の変遷と現代心理学の研究手法、脳科学との関係等をわかりやすく説明していただき、心理学部の概要を理解することができました。また質問コーナーではカリキュラムや卒業論文作成のプロセス、そして最近認められた公認心理師法についても説明していただきました。さらに心理学系以外の就職についても本学部を卒業している強みがあることを説明いただき親としては少し安心いたしました。ただ本人は、現在は部活動ばかりにほうけており、ちゃんと進級できるか心配ですが。しかし学部に進学すれば興味深い研究ができ、勉強に打ち込める環境であることが理解できました。最後はお茶を飲みながら余語先生と親しくお話をさせていただくことができました。私自身も研究教育に従事しておりますので、少人数でかえって私にとってはよい時間を持つことができました。この場を借りて御礼申し上げます。



■名古屋地区懇談会 (9/21)

役員レポート

阿部 史恵 (2年次役員)

シルバーウィーク期間中の9月21日、名古屋での地区懇談会に参加させていただきました。この日はシルバーウィークの真只中ということもあるのか、少人数での懇談会となりました。少人数での会ということもあり、皆さんざっくばらんに打ち解けた雰囲気の中、事務室職員の方や教授から大学の授業の単位のことやら就職のことまで普段聞けないお話を頂戴することができ、これからの我が子の将来にあたっての参考にさせて頂くことができ、有意義であったと思います。

また青山謙二郎教授の講演では、「高校の先生と生徒のテスト終了後の会話 (の中から)」ということで、講演の中での高校の先生の発言が自分自身に振り返っても全

く身につまされて、「心理学はこうなんだ」と納得させられる内容で非常に興味深いものでした。今後、自身の子供を育てていく上でも解りやすい学習指導の例ではないかと思ひ、より多くのご父母に参加して頂きたかったと改めて思いました。講演を通じて、子供たちが学ぶ心理学というものに少しではありますが触れることができましたので、そういう意味でもこの地区懇談会に参加して本当に良かったです。

来年度の地区懇談会には、皆様も万障お繰り合わせの上、是非ともご参加ください。きっと、実りあるものだと思います。



2015年父母会臨時總會報告

10月31日京田辺キャンパス恵道館203教室において、2015年度心理学部父母会臨時總會が行われました。父母・役員・教員を含む22名の方々に出席いただきました。

今回の臨時總會では『2014年度決算報告書の訂正』について説明させていただき、承認をいただきました。訂正後の決算書は下記の通りです。

心理学部父母会 2014年度決算 (改定後)

(2014年4月1日～2015年3月31日)

(単位：円)

項目	2014年度		備考	
	予算	決算		
収入の部	前年度繰越金	2,734,657	2012年度の支出2,000円を会計簿に計上漏れ △2,000円	
	会費	3,600,000	記載間違い 正 4,035,000円 (当年度会費3,390,000円+2013年度に納入の2014年度前受会費645,000円) +48,000円	
	会合費	100,000	記載間違い 正 29名×1,000円 誤 49名×1,000円 △20,000円	
	合計	6,434,657	6,796,657	合計 +26,000円①
支出の部	会報発行費	1,200,000	919,240	
	父母懇談会費	600,000	476,402	記載間違い 総勘定元帳より引き出した仮支出の金額を記載していた為、実際に支出した金額に訂正 △115,442円②
	学生援助費	100,000	0	
	学術研究助成費	300,000	20,000	
	教育補助費	500,000	329,732	
	謝礼	100,000	107,568	
	集会費	150,000	158,030	
	人件費	800,000	800,000	
	事務費	1,000,000	1,094,074	
	旅費・交通費	300,000	273,750	
	雑費	500,000	432,780	
	予備金	884,657	0	
	次年度繰越金	—	2,185,081	①+② 合計+141,442円の修正
合計	6,434,657	6,796,657	+26,000円	

2014年度末 (2015年3月31日現在) 財産金額

財産合計	次年度繰越金	2,185,081	
	次年度前受会費	684,000	2014年度に納入の2015年度前受会費
	合計	2,869,081	

父母会費について

年度	期首財産①	会費		会合費④	支出⑤	期末財産 ①+②+③+④-⑤
		次年度前受②	当年度③			
2013	3,456,138	645,000	3,243,000	49,000	4,015,481	3,377,657
2014	3,377,657	684,000	3,390,000	29,000	4,611,576	2,869,081



新1年次生の父母会費は入学金と共に振り込まれます。つまり、入学する前年に支払っている事になります。これを次年度前受会費と呼びます。推薦入学など、9月より始まっており、入学が決まる都度振り込まれます。また、入学辞退時は返金されます。父母会会計における会費=次年度前受会費+当年度会費となり、納入年度と異なるものとなります。在学生の父母会費も休学・退学時は返金されます。

心理学部父母会では、会費を大学が代理徴収し、父母会事務局にて管理しております。

その為、心理学部事務室内に庶務会計等を担当する事務局職員を1名置いております。

今回の決算書の訂正は、いずれも記載の間違いや算出の手違いによるものです。

また、父母会費合計額は、単純に在籍学生数と年会費の積ではなく、次年度の前受会費がある為、実際の財産合計額が決算書の金額と異なり、間違いに気づきにくい状況でした。したがって、今後、次の改善策を提案し、承認をいただきました。

今後の対策

・決算書フォームの改定

今まで記載していなかった次年度前受会費を決算書に記載し、父母会の財産合計金額を明確にする。

・詳細な経理規程の作成

支払い項目・科目の分類表・支払い金額の基準表を設け、会計にも監査にも解りやすい体制とする。

・事務局内での帳票チェック体制の強化

・監事の増員

この件についてのお問合せは、父母会事務局までお願いします。

メール：snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

電話：0774-65-8220 ファクシミリ：0774-65-8223

秋のアクティビティ.....

10/30（金）心理学部父母会で初めての試みとなる「秋のアクティビティ」を開催し、全国から25名のご父母にお越しいただきました。

継志館で佐藤豪教授の講演「カウンセリングにおける愛のかたち」を聴いたあと、継志館と新町キャンパスを見学し、寒梅館で杉若弘子教授に同席いただき昼食会。午後からは京都御苑を見学しながら新島旧邸へ移動し、旧邸をガイドつきで観覧したあと、学生ガイドの案内で今出川キャンパスを見学しました。



アンケートから一部抜粋

【講演会】

- たいへんわかりやすいお話で、カウンセリングについて理解を深めることができた（1年次生/父）

【昼食会】

- 素敵な空間と窓越しの光景、充実のお料理に感動。思わず会話が弾んだ。時間をかけてゆっくり味わうことができ、とても楽しいひとときだった（2年次生/母）

【新島旧邸見学】

- 一度は訪れたい場所なので楽しみにしていた。学生たちをととても大切にされていたことが随所から伝わり、同志社にご縁があったことを改めて感謝した（2年次生/母）

【今出川キャンパスツアー】

- 今出川キャンパスの設備・施設のすばらしさに感動した。この環境で勉強に励んでいると思うとうれしくなった。歩けば重要文化財が見られ、最新のものと古いものと良く調和がとれていると感じた（3年次生/母）

【アクティビティを通して】

- 他の方とも交流ができて良かった。講演もとても参考になった（1年次生/母）
- 楽しい休日を過ごせた。先生方も気さくで、いろいろ学校のことや京都のことを教えていただいた（1次生年/母）
- 今出川から継志館まで迷ってしまった。「矢印」が入っているとわかりやすかった。とても楽しかったので来てよかった（4年次生/母）



異文化のなかで暮らす

唐 鵬さん [1年次生]

中国人留学生として日本に来たのはもう二年半前のことでした。しかし、同志社大学心理学部に入学するまで、私は自分が留学していて、日本の文化に触れているという実感はあまりありませんでした。ずっと憧れていた心理学部に合格した喜びと異文化のなかで暮らしていく四年間に対する期待を抱えて、私はようやく大学生になりました。

授業を選択する時、授業はどんな形で行われるのか？どんな形でノートをとればいいのか？また、いろいろな授業があって、どんな基準で選べばいいのか？とても迷ってしま

た。でも先輩から授業についてたくさんのアドバイスをもらい、一緒に考えた結果、どの授業を受けるかを決めました。全員向けの授業なので、最初は一日の内容を飲み込むのに苦労しましたが、分からないことがあれば担当の先生の研究室に聞きに行ったり、自分で関連資料を調べたりして、だんだん慣れてきました。

また、大学に入って、新しい友達を作らなければならないと思ってバドミントンのサークルに入会しました。厳しい練習に堪えるには、非常に真面目な態度が必要不可欠なことがわかりました。頻繁に練習に出ているとは言えませんが、出たときに汗をたくさんかくまでやって、運動するのはやはり楽しいものだと感じられます。休憩時間にみんなと座って話したり冗談を言ったりして楽しむこともできました。

異文化のなかで半年も過ごしてきました。私はいま、文化の相違点より、その共通点にも気づいてきました。これからも大学生活を充実させるように、また互いに理解を深めるように、みんなと一緒に頑張りたいと思います。



大学での出会い

菊池 萌さん [2年次生]

地元である福岡を離れ、同志社大学の坂の下で下宿を始め、早くも一年半以上の月日が過ぎました。大きな生活の変化を不安に思っていた頃の自分を、今では懐かしく思えます。新しい環境に一人で住み、新しい友達ができ、大学生活を謳歌しているうちに、入学した当初にちやほやされていた博多弁は、次第にすっかり関西弁に影響を受けていきました。人見知りでも話せなかった友達ともどんどん仲が深まり、新しく慣れてなかった大学生活も今では毎日楽しめています。

私が大学で出会ったものはたくさんありますが、その中のひとつに一眼レフカメラがあります。入学してすぐにアルバ

イトを始め、カメラを購入するために貯金をし、初めて自分のお金で買った宝物です。私は普段から三日坊主だったため、今までこれといった趣味はありませんでしたが、カメラにはすぐに没頭してしまいました。写真というものは不思議で、撮るときの自分の気持ちが写真にも反映されるのです。楽しい気持ちで撮った写真はどこか楽しく幸せな写真となり、辛いことがあった日に撮った写真はその気持ちも写真にも写ってしまいます。カメラにはたくさんの機能があるため、操作の技術も必要ですが、気持ちをコントロールする技術も重要なことなのです。自分の幸せな気持ちがうまく反映され、素敵な笑顔で笑う友達の写真を撮れた時の喜びは何にも代えがたいものがあります。これからもこのカメラで、今の自分だけが撮れる一枚をたくさん残していきたいと思っています。

大学生活はまだ半分以上あります。カメラの他にも自分の没頭できるものに多く出会いたいと思っています。興味の湧くものには積極的に挑戦し、これからもたくさんのものに出会いたいと思います。



大学生活は自分次第

阿智北 梨菜さん [4年次生]

大学生活も4年目になり、卒業まであと少しとなると今までの大学生活がより一層名残惜しく感じられます。いろんなことに挑戦し充実していた大学生活はあっという間でした。

1回生の春学期までは授業の単位が取れるかどうか心配で勉強に励んでいました。しかし、夏休みにサークルの合宿に参加したとき、たくさんの先輩と話し、「大学生の自由な時間は自分次第でいくらでも楽しくできるし何でもできるよ。」と言われ、大学で勉強をするだけではもったいないと感じました。それからはサークル活動にもよく参加するようになり、塾講師のアルバイトも始めました。新しいことを始めると他にもやりたいことがどんどん見つかるようになり、思いつい

たことはすぐに挑戦するようになりました。

大学生活の中で一番大きな挑戦は、2年次生の終わりにオリエンテーション実行委員会の活動に参加したことでした。活動内容がよくわからないまま、団体で一つの仕事をしてみたいという思いだけで応募したのですが、予想以上に充実した時間を過ごすことが出来ました。企業への営業活動や大学周辺の飲食店へのインタビューなど、普段の学生生活では経験出来ないような仕事ができ、交友関係がとても広がりました。1年次生の応募が多い中、2年次生からでも応募してよかったと思います。

この経験が弾みとなり、3年次生になってからも上級英語の授業を取るなど今まで以上にやりたいことに取り組んでいきました。不安が多かった就職活動も、自分のやりたいことに挑戦する気持ちを持ち続け、乗り越えることが出来ました。

大学生活を通して、私は保守的だった高校生の自分からは想像できないくらい、何でも挑戦するようになりました。残りの学生生活はもちろん、卒業して社会人になっても、この行動力を活かして新しいことや自分のやりたいことに挑戦していきたいと思っています。



ゼミ探訪

4年次生のゼミ紹介

興津 真理子ゼミ

〈専門〉家庭心理学



現役カウンセラーの先生は私の目標
自分にふさわしい道が
きっと見つかる

4年次生

三山 夏奈子さん

家族関係の問題に興味があり、興津先生の専門である家族心理学のゼミを選びました。ゼミでは、夫婦間の信頼感と両親が子どもの配偶者選択に与える影響について研究しています。そうでないゼミもあるようですが、興津ゼミは週一回必ずゼミがあります。定期的に先生にアドバイスしてもらい、同じゼミ生と情報交換することで、いい刺激にもなりますし、やる気も湧いてきます。

3年次生までの仲のいい友達は同じゼミにいませんが、共通の興味を持った新しい友人ができて却ってよかったですと思っています。私は臨床心理士の資格を取るため、大学院に進みます。将来カウンセラーになるのが夢です。興津先生は現役のカウンセラーですし、身近な目標でもあり、進路を選択する上でも親身のアドバイスをいただきました。目標がはっきりしていない人、迷っている人も興津先生の励ましてやる気を引き出す指導で、きっと自分にふさわしい道が見つかると思います。



自分にない個性の友人たちと出会い
母親みたいな先生存在に
励まされた

4年次生

西神 百恵さん

一人暮らしを始めて、家族の有り難味が分かり、家族について考える機会が増えました。また、将来家庭を持った時に生かせる知識を習得したいとも思い、興津ゼミを選びました。私の研究テーマは「危機対応の世代間伝達」。同級生たちのお母さん百六十人に協力いただいて、調査を進めました。テーマを決める時に興津先生から親身の指導を受けました。厳しいダメ出しの時もどこがダメかをきちんと指摘して、優しく励ましていただきました。

ゼミには自分にないものを持っている人がたくさんいます。一緒に卒論を書く男子学生は、私が慎重でコツコツ型なのに対して、大胆でスピーディーなタイプ。とてもいい勉強になります。また、興津先生はお母さんみたいに癒される存在です。地元香川に帰って銀行に就職することが決まりましたが、心理学を学んだことで就活の面接でも関心を持ってもらえたり、お客様の気持ちを理解する上でも役に立つと思います。



自我をあらしめる努力を

興津 真理子 先生

Teacher's Voice

「イド（本能、衝動）あるところにエゴ（自我）あらしめよ」とはS.フロイトの言葉です。考えの及ばないところに考えを及ばせよと換言してもよいと思います。言葉にならない気持ち、わかりにくいこと、目に見えないもの、こうした捉えがたいものに考えが及ぶ工夫として皆さんは心理学的手法を学んできたと思います。その総まとめとしての卒業論文です。大変かもしれませんが、今こそエゴあらしめるべく考え抜きましょう。





ゼミ探訪

3年次生のゼミ紹介

藤岡 勲ゼミ

〈専門〉多文化間カウンセリング



私にとって毎日が異文化体験
海外勤務と臨床心理士の
夢を追いたい

3年次生

正木 優梨子さん

七月のゼミ説明会などを通じて、多文化間カウンセリングに興味を持ちました。またドイツ語を習っていて、ドイツに留学した経験もあります。ゼミを通じて、そうした興味や経験につながる勉強ができたかと考えています。まだ、ゼミが始まったばかりなので、まず多文化間カウンセリングの英文の概論を読んで、ゼミで意見を発表し合っています。今後は異文化理解や異文化と出会った時に感じるストレスについて卒論につながる研究をしたいと思っています。

ゼミの魅力は、少人数で密度が濃く、文献の読み方や検索の仕方など基礎的なところから教えてもらえることです。異文化という言葉で海外をイメージしがちですが、身近なところに異文化はたくさんあります。私にとっては毎日が異文化体験です。将来は勉強したことを活かせる仕事に就きたい。海外で仕事をすることも当然あります。また、臨床心理士になろうと心理学部を選んだので大学院に進む道も考えています。



文化的背景とモチベーションに興味
このゼミの面白さを
もっと知ってほしい

3年次生

深尾 将司さん

サッカーが好きで、小さい頃から海外のサッカーをテレビで見っていました。同じチームに文化的背景が違う選手がいて、チームとしてプレーできるのは面白いと感じていました。藤岡ゼミを選んだのはそんな興味と関心の延長線上で、多文化について考えてみたかったからです。サッカーに限らず同じ集団でもどんな働きかけが個々のモチベーションを高めるかは文化的背景によって異なります。今後は文化的背景と動機づけについて研究してみたい。

藤岡ゼミは僕らが一期生。多文化間カウンセリングそのものがまだ新しい分野でゼミは新鮮な雰囲気です。先生には適度に厳しく指導してもらっています。多文化というと宗教とか民族とかを連想しますが、性別や性的マイノリティなどの問題も含んでいて、僕自身も偏見を持たずにお互いを理解し合うことの大切さを学ぶことができました。グローバルな問題から身近な分野にまで広がるこのゼミの面白さを皆に知ってほしいです。



ようこそ藤岡ゼミへ

藤岡 勲 先生

Teacher's Voice

今年度から藤岡ゼミが開講されました。初めての開講のため、学生にとって藤岡ゼミに飛び込むことは勇気が必要だったのではとも思っています。にもかかわらず、私の専門である多文化領域について学びたいという想いを持ったゼミ生を迎えることができました。そのような想いに応えるためにも、ゼミ生が自分の持っている力を発揮できるよう、楽しみながらがんばることができる指導をしていきたいと思っています。





応援に対する 心理学的考察 ～一応援団員として～

小野 由莉花さん [3年次生]

「我々は、同志社大学、応援団でございます」入学式の日、満開の桜を散らさんとばかりに太鼓を打ち鳴らし、声を張り上げる団体。この時は思わなかった。一年後、そちら側に立っているなんて。

今や授業の傍ら、楽器が吹けない日も応援に行き、イベント時は企画を手がけ、合宿の際はホテルからバスから一切の手配をする日々である。もちろん吹奏楽部員として楽器の練習にも明け暮れている。今日も隣先輩から「ちゃんと吹いて！」のお達し。頑張らなくては。



心理学部の人に「応援団吹奏楽部です」と言うと、また応援団の人に「心理学部です」と言うと、決まって同じことを言われる。「へえ～。じゃあ、応援の心理をやりたいの？」

そりゃ心理学部生たるもの当然、活動中に心理学のことは考えている。例えば、ピラ配り中は「ピラを受け取る人の行動パターン」を見つけようと躍りになっている。最近では部員に片っ端からジャンケンを挑むこと4週目に突入した私を、後輩たちが怪訝そうな目で見て（断っておくが、れっきとしたプレゼミ活動である）。いわゆる「リア充」たちを分析しようとして煙たがられるのもしょっちゅうだ。でも、「応援を研究したい」と思ったことは一度もない。

実を言うと私は、学習、モチベーション、その他知識を駆使しても、応援に行く意味が未だに分からない。だって試合に勝とうが負けようが選手の実力で、私がどれだけ吹こうが叫ぼうが結果には関係ない。それなのに応援に行く私がいる。私たちに応援をさせてくださり、「応援ありがとうございました」と言ってくださる方々がいる。そして時折、選手も観客も応援団もひとつになったと思える瞬間が確かに訪れる。その時は本当に、マンガのような逆転劇すら起こすことができる。応援する側もされる側も、そしてその結果も、私の理解の範疇を超えている。

だから、いつもこう答えることにしている。「いいえ。だって応援は、科学を超えてきますから。」



3年目の学生生活

砂崎 綾さん [3年次生]

現在私は大学3年次生となり、大学生活も残り1年数か月となりました。振り返ってみると、大学に入って多くのことを経験したと感じています。

まずは、大学で専門の授業を習うことです。大学3年秋学期にゼミがあります。私は食行動に元々興味があり、その分野について研究したいと思い、現在所属しているゼミを選びました。興味のある分野の勉強について、ゼミの友人と理解を深めています。

次に体育会柔道部にマネージャーとして所属してい



ることです。最初は新しいことをしたいと思って入部しました。私は今までスポーツとは無縁な世界で生きてきて、柔道について詳しいことは知りませんでした。柔道部のマネージャーの仕事はほとんどが裏方です。約400名存在する柔道部OBに寄付金の御願いをした

り、御礼状を書いたり、大会での試合記録を取り、広報紙を作ったり…。最初は慣れないことばかりで、先輩に支えてもらっていました。今では先輩にして頂いたことを、後輩に指導しています。

最後に一人暮らしです。私は地元から離れて暮らすことになったので、一人暮らしをすることになりました。今までは実家で暮らしてきたので、家に帰るとご飯があり、きれいに畳んである服があることが当たり前という考え方でした。一人暮らしをすると、掃除・洗濯・料理等の生活していく為の全てを自分でしなければならず、実家では家族に甘えていたことを感じ、一人暮らしをしてみないと分からないことがたくさんあると気づかされました。

大学生活ができるのはやはり家族のおかげだと感じています。大学に通わせてもらい、一人暮らしまでさせてもらっています。本当に感謝しかないです。多くの経験ができるのも、家族がいてこそだと思います。



4年間の学生生活を振り返って

東 拓実さん [4年次生]

高校3年生の進路決定の時期に、サッカーが強くまた勉強にも力を入れているところへ行きたいと考え、同志社大学を第一志望としました。心理学部に滑り込んだのは良いものの、初めはあまりの勉強内容の難しさと周りのレベルの高さに心を折られ、毎日授業に行くのが憂鬱でした。それでも周りの友人たちや先生に助けられながら、なんとかここまでやってこられました。ただただ感謝しています。一方でサッカーでは目標であったサッカー選手になれず、またこれといった結果を残せないまま引退しました。中学生の時に一緒にプレーしていた友人が来年からプロサッカー選手になるのですが、なぜここまで差がついたのかと



考えた時に、技術の差以上に精神的な強さに違いがありました。僕は自分に甘いところがあり、精神的に未熟でした。悔しいですが、サッカーへの未練を断ち切ってまた違うステージで家族や支えてくださった方々に恩を返すために、また世の中のために、プロサッカー選手になる彼に負けずに強く生きていこうと思います。



左から、小松 耕野(3年)、東 拓実(4年)、川本 紘平(1年)、松田 翔平(2年)、北岡 優駿(3年)

家庭裁判所調査官の業務説明会

家庭裁判所調査官の業務説明会が、10/21 (水) 14:45より香柏館低層棟のフリーラウンジにて開催され、家庭裁判所調査官や公務員の業務に関心をもつ19名の学生が集まりました。

京都家庭裁判所より統括主任家庭裁判所調査官 藤田様、家庭裁判所調査官 石川様にお越しいただき、約1時間にわたって調査官の業務の様子や採用についてのお話をうかがいました。終了後も多くの学生が質問に並び、参加者それぞれが有意義なお話を伺えたひとときでした。



同志社大学大学院心理学研究科 入試説明会

心理学研究科の入試説明会が、11/7 (土) 13:00より夢告館202教室で開催されました。

心理学コースと臨床心理学コースについて、中谷内学部長・鈴木先生・武藤先生・興津先生より説明があり、学内外から集まった20名以上の参加者が熱心に聴いていました。説明会終了後の個別相談では、各先生から個別にアドバイスをもらっていました。

次回は2016年度夏頃に開催予定です。心理学研究科に進学をお考えの方は、忘れずにご参加ください。



2015年度 学部学年暦

春学期

春学期	2015年	
	4月1日(水)	春学期始め・春学期入学式
	2日(木)	春学期入学式
	2日(木)	新入学生履修指導期間 履修科目登録期間
	3日(金)	
	4日(土)	
	5日(日)	
	6日(月)	
	7日(火)	講義開始
	28日(火)	春学期学費納入最終日
	29日(水)	休日
	5月5日(火)	
	5月6日(水)	振替休日(授業日)
	7月20日(月)	海の日(授業日)
	27日(月)	講義最終日
	28日(火)	期末試験開始
	8月7日(金)	期末試験終了
	8日(土)	夏期休暇開始
	9月23日(水)	夏期休暇終了
	24日(木)	在学生成績通知書配付
26日(土)	春学期卒業式・学位授与式	
29日(火)	秋学期履修科目登録変更	
30日(水)		
30日(水)		春学期終了

秋学期

秋学期	10月1日(木)	秋学期始め・講義開始
	3日(土)	秋学期入学式
	12日(月)	体育の日(授業日)
	30日(金)	秋学期学費納入最終日
	10月31日(土)	同志社クローバー祭 (スポーツフェスティバル)
	11月1日(日)	
	3日(火)	文化の日(授業日)
	23日(月)	勤労感謝の日(授業日)
	26日(木)	創立記念行事週間(休講)
	27日(金)	
	28日(土)	
	29日(日)	創立記念日(休日)
	12月23日(水)	天皇誕生日(授業日)
	25日(金)	キリスト降誕日(休日)
	29日(火)	冬期休暇開始
	2016年	
	1月5日(火)	冬期休暇終了
	6日(水)	講義再開
	23日(土)	創立者永眠の日
	27日(水)	講義最終日・金曜日授業振替実施日
28日(木)	期末試験開始	
2月17日(水)	期末試験終了	
3月上旬	卒業可否発表	
3月20日(日)	秋学期卒業式・学位授与式	
21日(月)		
22日(火)		
25日(金)	在学生成績通知書配付	
31日(木)	秋学期終了	

学部インフォメーション

● 2015年度 心理学部 卒業論文ポスター発表会

4年次生の学生生活の集大成となる発表会です。

日時：2016年1月30日（土）

場所：京田辺キャンパス



同日開催 今年度4月に竣工しました「京田辺会堂」にて講演会を開催します

講演会「親子で隠れた才能を見つけて伸ばす方法」

梅原 伸宏 氏（社会教育家 グラブ博士）



2002年 純国産のグラブブランド「BBA Yamato」創設。グラブの歴史の研究をしてアメリカの野球殿堂博物館から表彰をされマスコミから800回以上の取材を受ける。グラブの本が55000部販売され全国の野球部で講演。のべ3万人の選手、指導者を指導する中で研究を深めてきた「親子の成長」に関する知恵をひとりでも多くの親子に届けるため社会教育家としての活動をスタート。個人の才能のを見つけ方、磨き方の方法は東大、慶應、神奈川桐蔭、桐朋高校などで指導。著書は「グラブ・バイブル」ベースボールマガジン社「グラブ・ノート」「グラブ・マスター」日刊スポーツ出版「親と子の夢を叶える宝地図」プレジデントファミリーなど。

詳細は、同封のご案内でご確認ください。

● 2015年度 心理学部 秋学期卒業式・学位授与式

日時：2016年3月22日（火）10：00～

場所：京田辺キャンパス デイビス記念館

● 2016年度 入学式 心理学部 新入生父母交流会

日時：2016年4月1日（金）

場所：京田辺キャンパス

● 2016年度 心理学部 父母会総会・就職講演会・懇親会

新役員・決算・予算・事業計画などをご審議、ご承認いただく年1回の総会です。講演会・懇親会もあわせて開催を予定しております。

日時：2016年5～6月開催予定

場所：京田辺キャンパス

詳細は追って心理学部父母会ホームページ、郵送にてご案内いたします。

【心理学部父母会会則】

- (名称)
第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。
- (目的)
第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。)の教育方針に則り、教員と学部在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。)との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。
- (会員)
第3条 本会は、次の会員をもって組織する。
(1) 父母会員 学生の父母
(2) 参与会員 学部所属する専任教職員 若干名
(3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者
- (事業)
第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事
(2) 学生の教育、厚生、就職等に必要なる事業に対する援助
(3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助
(4) 会報の発行及び配付
(5) その他本会の目的を達成するために必要と認めたる事業
- (総会)
第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。
2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。
3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。
4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。
5 定期総会は、次の事項を決定する。
(1) 役員を選出
(2) 会則の改正
(3) 事業計画、予算及び決算
(4) その他重要事項
- (役員及び役員会)
第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。
(1) 会長 1名
(2) 副会長 2名
(3) 会計 1名
(4) 委員 若干名
(5) 監事 1名
- 第7条 役員は、次の方法によって選任する。
(1) 父母会員の中から選出する。
(2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。
- 第8条 役員は、次の職務を行う。
(1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
(3) 会計は、本会の会計を管理する。
(4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。
役員任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。
- 第9条 役員会は、必要に応じ適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。
(1) 役員会の推挙
(2) 会則改正案の作成
(3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
(4) その他会務の運営、執行に関する事項
- 第11条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。
- 第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。
- (運営資金)
第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。
(父母会員費)
第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。
2 父母会員費は、毎学期の初めに納入しなければならない。
3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。
- (会計年度)
第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
(事務局及び職員)
第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。
2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。
- 附則
この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページをご活用ください！
詳しい情報を随時発信してまいります。

同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>

心理学部父母会 ページのログインにはパスワードの入力が必要です。

- 2015年度心理学部父母会ログインパスワード
「fobsr15」(半角英数字で入力)

在学生の方へ ページのログインにはパスワードの入力が必要です。

お子様たちの活動写真を「フォトアルバム」ページに掲載しています。
ぜひご覧ください。

- 2015年度心理学部フォトアルバムログインパスワード
「stphoto2015」(半角英数字で入力)



ご父母のさまざまな
ご意見ご感想など
お待ちしております。
左記までご一報ください。



同志社大学 心理学部父母会会報 第13号 2015年12月18日

編集・発行／同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

TEL : 0774-65-8220 FAX : 0774-65-8223

E-mail : snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷／株式会社 石田大成社